



圓柱新明初太平記

卷

特  
遠 13  
373  
3



門心遠13  
辨 378  
卷 3

本喜

同姓於胎方要記

三ノ巻目録

此者其積



舅が扱<sup>あつか</sup>益<sup>えき</sup>春<sup>はる</sup>也<sup>なり</sup>反<sup>ひら</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>歴<sup>れき</sup>

親<sup>おや</sup>より<sup>より</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>を</sup>研<sup>けん</sup><sup>く</sup>端<sup>たん</sup>祥<sup>しょう</sup>女<sup>にょ</sup>が<sup>が</sup>貞<sup>てい</sup>節<sup>せつ</sup>

帝<sup>てい</sup>よ<sup>よ</sup>心<sup>こころ</sup>の<sup>の</sup>以<sup>い</sup>權<sup>けん</sup>目<sup>め</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>を</sup>研<sup>けん</sup>端<sup>たん</sup>祥<sup>しょう</sup>女<sup>にょ</sup>が<sup>が</sup>貞<sup>てい</sup>節<sup>せつ</sup>

夜<sup>よ</sup>半<sup>はん</sup>王<sup>おう</sup>と<sup>と</sup>仰<sup>おほ</sup>せ<sup>せ</sup>らん<sup>らん</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>を</sup>研<sup>けん</sup>端<sup>たん</sup>祥<sup>しょう</sup>女<sup>にょ</sup>が<sup>が</sup>貞<sup>てい</sup>節<sup>せつ</sup>

軍配周まのぬま集軍坊

慶長七年正月廿七日 幸村 誓古

味心豆を汁略は喰付敵は馬

も盛とふ敵は家

日平は智恵打用と敵は味

松の丸を八真赤を後へ返せ

敵は火打して火打は石火矢

云根責より代へりてんり大花

舅が指し言吾ぬぬ郵の心

又も軍目輝元後列府の人盛りの徳少く勇徳人報

よりゆらと村もあ軍はとてい美れ事と通と移く

難朝ふきうく人れさうかふ真化府は九僊山は月つ

何仙廟よの事あゆは夢沖は真後の事とんる金鳥飛

て南海へ入車福とあつてゆよむふ其想はく其者れは

い金鳥の日福天子は象より南海へ福建有る福摩下は

真化泉別清列よむと皆乞中あふ南あふりかると

原ひそのの船君とあまきつてゆよむるや南あ直を打と

大明と真とへこれ者あると中あふとて再おとく下

ぬ福祿女むひひとて返か今日と九仙山乃仙廟の

かとらるるをいふはされん夫よりあるはほろあるふありてはまむくも  
 げゆの小仙廟あり只と下向きなり。とみたるは元正のいんがら  
 ぶかれに坊十万誘れ蘇以敷誘お軍れ宿よ相きりて後天の  
 冠装束とむり大役仕有る。家れ西園寺の道とこときんぐお  
 見え久し、誘福女のおとあひとあり。御もあは事ハかゝるある  
 まらむを思ふ事、麻く後よ如ともな事、あゝかゝりてあり  
 又と後うりて見牙回なり。後産あり。いふ事、れ中まゝに事さ  
 射面ととげの飯飯まてとあまていへらり。と射面ありとあかた  
 ろてありあり。いふ事、あり。あゝかゝるあるは、母輝きて  
 如行く、第ふまゝ出ぬ之傳、久し。いふ誘福女ほびは、まてせよ  
 官史相お同ととむし出書れ、母輝よ、い合とかなとこと、事さ

いあまの親兄弟のさやとや何やん。い母輝よ、後せられとこと  
 ろ、其は只今、難題の大ま、幕り、屋一、高福を信する方大明  
 乃余勢、いけり、わく、道途、まては、いなるぬ、秋お、あゝも  
 舞、も柄、あ、とあり、事、い、り、修、す、れ、終、つ、た、の、ま、ぬ  
 さ、り、よ、若、つ、宿、つ、ら、と、と、つ、つ、ぬ、う、ち、つ、つ、ま、を、美、其、の、後、産、と  
 せ、せ、ぬ、い、ひ、ま、り、い、い、と、と、れ、つ、宿、つ、入、ら、ぬ、い、大、見、再、見、あ、お、後、つ、ひ  
 お、り、も、て、程、縁、ま、く、わ、れ、な、ま、い、和、有、同、と、み、出、せ、ま、い、修、舞、母  
 難、友、の、業、と、七、節、是、託、老、一、宿、の、件、回、か、し、く、お、生、せ、り、和、後、つ、三、夏  
 と、い、ふ、の、只、今、れ、ゆ、は、難、難、れ、美、の、ま、小、ま、て、う、い、重、の、見、あ、は、つ、の、い  
 事、終、若、れ、い、い、ふ、あ、の、り、は、笑、い、ま、お、い、は、美、ん、れ、あ、推、来、い、せ、り  
 せ、ら、ん、ま、り、難、難、ゆ、と、人、ら、れ、難、い、乃、行、風、と、お、い、り、あ、せ、り、秋、あ、り、回

本れ若るれたるるん玉れやうる事生玉れあまのむ事も様じ  
 削ても盗泉れあまのまど思たれ玉もれ様もらうととらり  
 高形同おれ杖とまとのまらやなと結さめい奴ら身と様れ  
 ける此南地の統者あくとわれ若るるんといふ高生玉れあま  
 輝とつふ村乃ものと聲響の結あつ目な人あひ火とつと様さ  
 うと同一宿れ若る火をうたぐ奴と事同あまといふ後  
 毛いびるまぬといふ高生まきこつ解なまらこの教目か  
 元保勝まふと如くく他西事のたんとひとつえあまと意  
 と今と結とつらやん世の人あまりれて人あふまされるひは  
 向後とつあまらま(龍靴の青賊とららほ)大明乃上國と  
 とそん若る此様様とあまられよ志うらまらひひ女言先帝の

常軍れ金ありて二口ひまを金人扱てよね加へく事せん  
 けもあつて大団前れらるん玉れあまの物とまらうととらり  
 おもつらうん庭あつて妻女と離縁けさうへんたれは御孫  
 ままて天と鳥りれとままらとせあるあまらうん親子見事  
 いと世とまらうとまらあら海とあまらうとまらうとまら  
 けさるるん玉もれとまらうとつあつては身離あまらうん  
 雲いんらうと極虎のらとまらんや(ゆき)盗路ままら天  
 けららもの一宮の和合向のとかりあまら女と人またあは  
 事とまらまの事報衣服とまらやんとのかたつこと身離あ  
 事とまらまらりつふ御孫女とつら(御孫)御孫とまらあまら  
 くあまらまの事報とまら御孫とまらあまら此かたの若る











西よわらし今さら方と金つてをとりつる。あまきとゆきとめて  
 我あれ能とあきんとあまのひこみと。世つてわらひ行能國と  
 勢おつてとら事とまればまらう不智。ちうは西國もらと合今目  
 其とのまんとあつと胸中やうかよおれあけつらうとく達ひ  
 とらうとゆいし今ら我とあけ軍勢とさくまのこまらえ  
 と一対と討賊く海國と要均くを帝乃幼君とあまのひこみ  
 大明の沖代とあまのひこみ。今日わら大將軍とあまのひこみ  
 平王國姓爺とあまのひこみと章甫の冠後座れ誓末とあまのひこみ  
 ちおとくわつとさくまらうのそね履合はまとしてつと  
 定れとてとさくまらける。

軍配圖格丸のよ集る軍勢

兵書よ所留軍の傷負かゝるうとくを勝れあつとあまのひこみ。つ  
 乃邊と將との係よあつとつと。それ延平王國姓爺成功を  
 初孫武勇と道徳とあまのひこみ。威名と中あまのひこみ。敵と我  
 て破つとつと事とく軍とあつと。大軍とつと。我手是とえ  
 うらうとあまのひこみ。大敵とあまのひこみ。大軍とつと。我手是とえ  
 ちうと事とあまのひこみ。海陸縣南洋の軍と討勝後建軍  
 門とつと。勝利とあまのひこみ。威勢天下とあまのひこみ。功名とあまのひこみ。達  
 情とあまのひこみ。揚湯餘熱とあまのひこみ。名報とあまのひこみ。稱とあまのひこみ。い  
 うらと山れとく城とあまのひこみ。振本の地とあまのひこみ。教子孫とあまのひこみ。姓  
 名とあまのひこみ。要害とあまのひこみ。復とあまのひこみ。あまのひこみ。姓  
 名とあまのひこみ。大軍とあまのひこみ。一とあまのひこみ。押

よき強うん。それうききく。お房の衆人をもつ小射。鹿を射  
まくまらうと。わく射。事味。其士率にまされり。わくまらうと。みこ  
乃多えら。衆人乃を難く。うれと。まらるる。わく。白。衆。を。まら  
ま。中。と。い。ども。まら。ん。れ。衆。人。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
お。ら。り。と。眉。あ。ひ。は。難。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
よ。ま。く。我。一。つ。れ。計。を。あ。く。味。方。の。衆。と。月。年。の。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
わ。く。と。白。根。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
射。を。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
人。と。衆。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
と。衆。の。目。を。射。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
お。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。

けつ。と。い。ひ。つ。つ。大。明。滅。せ。り。射。良。山。中。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
と。七。一。十。一。歳。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
善。言。の。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
大。明。の。代。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
幕。下。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
強。大。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
志。子。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
悦。び。九。仙。の。深。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
と。七。志。子。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
性。又。射。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。  
ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。と。ま。ら。る。

景の身とて、  
 わるまの武威、  
 一も倭君、  
 由人なりと、  
 なる。たゞ、  
 たりし、  
 也、  
 て、  
 と、  
 とい、

十、  
 君、  
 つ、  
 家、  
 勝、  
 及、  
 矣、  
 其、  
 中、

水の戦ひは利とるべく付とのたさせぬ人づくおよそ中余戦を  
 ちよ入ら知れ今極果れ付言と我の章の母とあまりのさゆへ  
 ちつらんを元身寄つてと勝るらん一解新飛て五年合戦  
 へよあせと泥よあつる魚のどくよた差討のあまのまより結交  
 味方れ徳軍勢からほろてつたひよおりくう事したと六竹  
 とまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 むとろとまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 のめく物と敵とろろとえんをまんだれ徳おむと向きうそ  
 ちつらんを元身寄つてと勝るらん一解新飛て五年合戦  
 へよあせと泥よあつる魚のどくよた差討のあまのまより結交  
 味方れ徳軍勢からほろてつたひよおりくう事したと六竹  
 とまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 むとろとまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 のめく物と敵とろろとえんをまんだれ徳おむと向きうそ  
 ちつらんを元身寄つてと勝るらん一解新飛て五年合戦  
 へよあせと泥よあつる魚のどくよた差討のあまのまより結交  
 味方れ徳軍勢からほろてつたひよおりくう事したと六竹  
 とまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 むとろとまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 のめく物と敵とろろとえんをまんだれ徳おむと向きうそ

切らうりてたをさきたり石火矢とあまの結うけりてせんや  
 ちつらんを元身寄つてと勝るらん一解新飛て五年合戦  
 へよあせと泥よあつる魚のどくよた差討のあまのまより結交  
 味方れ徳軍勢からほろてつたひよおりくう事したと六竹  
 とまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 むとろとまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 のめく物と敵とろろとえんをまんだれ徳おむと向きうそ  
 ちつらんを元身寄つてと勝るらん一解新飛て五年合戦  
 へよあせと泥よあつる魚のどくよた差討のあまのまより結交  
 味方れ徳軍勢からほろてつたひよおりくう事したと六竹  
 とまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 むとろとまらうとくあま前とろろほとまりつたれと徳とあまをむりて  
 のめく物と敵とろろとえんをまんだれ徳おむと向きうそ

くらんとしてけらみまどまた作の荷あまらこ人あつた  
 ひまらあどらりかへんくは打たれ無無あつた  
 大らまもつては西を引退さ鬼岩園陣とら。大お梅勤ま  
 初方の合戦打負やとらびあさし昔自齊れ田草大牛れ修を  
 とつて大らま勝利とらり我まどつて軍あつては無無出  
 勝とらんとあつておわらり。今ひ時よは青汁とつて今まの恥辱  
 とらかんともうさことまらりきる。物なれとのわらりてせんや  
 けるか敵大牛れとらりてとまらるひせめかるそのありとえん  
 せられ國姓最打多の梅勤まの思あつて名おとあつてあつ  
 といひに相とれ思あつて。かんこ思えんけのむらひ敵大牛の  
 とらりてとらりて我をあつてむらんとらる事あつてとららるの  
 も

ありの由田草が大牛の古はさり。袖とらるひ青あつた。二  
 へえさの軍の技よまらひ愛はあつた。あつた。あつた。あ  
 ありて古はさりかつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ  
 大牛とあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ  
 勝たあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ  
 かるてあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ  
 けらり。大牛れとらりてとらる。あつた。あつた。あつた。あ  
 ありて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ  
 たりつて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ  
 つひあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ  
 尾れあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ

うたうとて牛と云つてさういふ牛がうらうとて軍  
 勢大に増えたりして陸軍大なるは發動する亦を後にはさへ不  
 子れ精兵ひびき打ちようとくおぼしむ傍利をぬる術ありかくて  
 梅勤王とてんれ大牛とありらとあり又子れをたよひりて  
 て戦ふ今よれ討つて敵よ大を付おひてをきり西はさるりて  
 よりぬぬるりたれは陸軍勢を下知してさういふさういふ  
 ごと大牛ちうくさりとてんれ合ふ方のうは鉄炮一をよはるは  
 けうちたれおとせとむくさうさうとる半とてさういふは  
 さういふまのうらうありかつては英械をねくつて殺されぬれ  
 いらる術ありはのりいさめ入おひつらよきけつる。さういふ考殺  
 とさういふ大お梅勤王を痛むとありさういふ時をぬよとつ

西と云ふ三種うらうとて首ととり凱歌とありけつるさういふ鬼  
 岩美とて遠處にて陸軍勢は酒合ととりて飛空を補ひぬり  
 日本乃智恵袋打用ひて敵の城門  
 唐船とつらうとてさういふはさういふ船とありけつるさういふ  
 海軍とてさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは  
 ずわいといふ商人船とさういふはさういふはさういふはさういふは  
 しとてさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは  
 女とてさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは  
 せとてさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは  
 今とてさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは  
 ま小孫の影とてさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは







城のまゝとんのねとびしとせめんとせめんとせん勢うしるま  
ろく時方とせめんとあれんとと書洞城とうあてをらん  
から書洞城よりほほの勢とあくと勢とせんとせん  
思ふとせめんとと書洞城乃大相お勢が尚久のとと大相の  
屋下いそつ書洞城とせんとせんはせんとつて陸奥と侍り  
やうに侍つたせんとせんおつてゆりんとせんとせん  
むと向つて別侍と書洞城つらとせんとせん尚久の勢と  
梅守とつと軍大おとつととせんとせん梅守と  
勢と對面われ梅守とつらとせんとせん梅守と  
けとつと梅守とつらと又若のせんとせんとせんと  
親とつと梅守とつらと梅守とつらと梅守と

延平まよむしと書洞城つらとせんとせん  
せより梅守とつらと尚久の勢とつらとせんとせん  
てまつとせん梅守とつらと合せんとせん梅守とつらと  
けつと尚久とつらと城とつらとせんとせん梅守とつらと  
三種のあおとせん梅守とつらとせん梅守とつらと  
おつとつらとせんとせん梅守とつらとせん梅守とつらと  
又梅守とつらとせん梅守とつらとせん梅守とつらと  
親とつらとせん梅守とつらとせん梅守とつらと  
つらとせん梅守とつらとせん梅守とつらと  
れ梅守とつらとせん梅守とつらとせん梅守とつらと  
おつらとせん梅守とつらとせん梅守とつらと



ありあつたのいふに敵軍の言ふことたのそとをさるるありとあるのいふに  
 日本もして海軍の戦は判友を經ひまゝの越とあつて而して  
 各の城とあつた。又陶山もあつた。益々の城とあつた。方と敵とあつた  
 事と險阻とあつた。もよりあつた。入と務利とあつた。成と考とあつた  
 乃と人軍とあつた。えと何と海軍とあつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 なるよ海軍とあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 かりとあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 とつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 ことと海軍とあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 した。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 ありあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

けんをまらへん。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 ぶあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 見た。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 こととあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 とつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 礼。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 ける。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 んとあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 湯。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた  
 ありあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた





